

令和8年度 学校経営計画

四條畷市立四條畷南小学校
校長 芝田 孝人

Ⅰ 学校経営方針

四條畷市教育振興基本計画(令和7年10月改定)には、本市の教育の長期的かつ普遍的な将来像(夢)に、基本理念「みんなの学びが叶うまち～生涯 学び 夢 挑戦～」が掲げられている。

令和7年3月には『まなびのプラン(学力向上計画)』の第2期改訂が実施され、「目標に基づく施策」の充実に向けて、①組織的な取組の推進②子どもが学びの主体になる授業づくり③家庭での教育力の向上、生活習慣の改善が求められている。

私たちを取り巻く環境は、地球温暖化などの影響により頻発する自然災害に加えて、情報化やグローバル化など社会情勢も大きく変化してきている。

小学校学習指導要領では、新しい時代に必要となる育成すべき資質・能力を「学びに向かう力・人間性等の涵養」「生きて働く知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」としている。

予測が困難なこれからの時代を生きる子どもたちには、子どもたち自らが、自分の人生を切り拓き、生き抜いていく力を培っていくことが求められている。

四條畷南小学校では、子どもたちに、自分の将来に夢を持ち、しなやかにたくましく生きる力を育成していきたいと考え、令和8年度の本校の教育活動の方向性を以下の通りとしたい。

【学校教育目標】

「夢に向かって自ら学び、たくましく生きる子ども」

～ 協働 つながり 家庭・地域との連携 安全で安心できる環境 ～

今年度は、学習指導と生活指導の一体化を意識し、上記「学校教育目標」の実現に向け、下記の観点を学校経営の中心の方針として教育活動を推進していきたい。

○この時代を生き抜く子どもたちが、必要な資質・能力を身につけるには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要不可欠である。これまで本校で取り組んできた国語科を中心とした校内研修による成果を更に深めるとともに、授業改善加配教員(JK)を中心に、その成果を他教科へも広げていく。

○いじめや虐待、児童間のトラブルや問題行動を未然に防ぐ方策として、行事や授業など全ての学校教育活動において「つながり」を大切にした取組みを全教職員で意識し、日々の授業の中での声かけ、励ましなど、全ての児童の成長や発達を日常的に支える「発達支持的生徒指導」や親和性の高い「ポジティブ行動支援」の視点を大切にして子どもたちに関わっていく。

○学校教育活動や各教科等との関連を踏まえ、専門家による出前授業や地域の人材・施設などの資源を積極的に活用する。体験的な学習を通じて子どもたちの望ましい教育活動を確保し、個々の視野を

(様式1)

広げると共に心や体の成長を促す。また、様々な経験をすることで、達成感や充実感を味わい、仲間とともに協力して取り組むことの素晴らしさなどを伝えていく。

○安全で安心できる学びの場を全教職員で意識し、自然災害や不審者、アレルギーなどへの対応が迅速かつ適切に行えるよう、担当教員を中心にチームとして取り組む。また、日々の清掃活動や給食指導等にも注意を払い、子どもたちが自分たちの力で、自分たちの活動の場の環境を整えることの大切さを伝えていく。

○GIGAスクール構想に基づく、ICT機器の活用により、多くの情報から必要な情報を収集し活用する情報活用能力の育成や、個別最適な学びや協働的な学びの充実など、子どもたちが未来社会を生きるために必要な資質・能力の向上を図る。

○教育活動全体を通じて人権教育や道徳教育の視点を大切に、学校全体で個を大切にして多様な考えを認め合える豊かな心の育成に努める。また、異年齢交流などを積極的に行い、子どもたちの自己肯定感や自己有用感の醸成、仲間と協力し活動する経験を通じ、つながりづくりを意識した指導に努める。

○合理的配慮や基礎的環境整備の視点から、個に応じた支援が受けられるよう、授業におけるユニバーサルデザイン(UD)の考え方を推進し、全ての子どもが学びやすい授業づくり(全員参加)に努める。

○子どもたちにとって、第一の教育環境である教員が、授業準備や子どもと向き合う時間を確保することができるよう、カリキュラムや日々の教育活動を見直し、校内の多様な人材が専門性を活かして能力を発揮できるよう教員の働き方改革の推進に努める。

○子どもを中心に据えた家庭・地域・学校の連携を密にし、適切な資源を活用しながら、子どもたちの健やかな成長を保護者や地域とともに見守っていく。また、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の活動の中、家庭・地域・学校が目標や課題を共有し、地域の物的、質的支援を活用して、地域と連携したWin-Win教育活動の展開をめざす。

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	・子どもたちが生き活きと笑顔で活動する、 <u>安全で安心できる学校</u>
★めざす子ども像	・しっかりと考え、主体的に活動できる子 ・相手の気持ちに寄り添い、行動することができる子 ・粘り強く取組み、やり切ることができる子

(様式1)

★めざす教師像	・子どもの実態を的確に把握し、適切な指導ができる教師 ・主体的に課題を捉え、広い視野を持って解決できる教師 ・人間愛にあふれ、明るく前向きに仲間とともに学び続ける教師
----------------	---

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

本校児童は素直で明るく元気で人懐っこい。友だちにも親切にやさしく接することができる児童が多い。知的好奇心も旺盛であり、新しい事や楽しそうなことに対して意欲的に取り組むことができる。子どもたちの学校生活の根底にある安全で安心できる環境が自己肯定感・自己有用感の高さを下支えしていると感じている。

しかし一方で、自分の考えや気持ちを丁寧に相手に伝える力や、自分の未来をイメージして夢に向かって計画的に取り組む力、努力を粘り強く継続する力などの更なる育成が課題である。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

本校児童の家庭環境について、保護者は我が子に対する愛情や関心を持って子育てをおこなっている家庭が多い。家庭での教育環境については、子育てについての考え方が多様であることや、保護者の多忙さなどから校区内でも一様ではない。習い事に通う児童の数や家庭学習に保護者が関わる時間などもまちまちである。

②地域

伝統的な地域のつながりを保ち、本校を活用して、餅つきやお花見、盆踊りなどを積極的に開催している地区もある。地域のおとなたちで子どもたちを見守り育てようという意識をもっておられる地域の方は多い。1年生の補助(エプロン先生)、校区探検、お店調べ、昔遊びなどのボランティアとしての活動も盛んである。民生委員、地域コーディネーターをはじめとして、子どもの安全確保やすこやかな育成のために熱心に力を貸してくださる方も多い。

③組織(教職員、PTA、保護者)

教職員は学校全体の課題や個々の児童の課題を共有しようとする意識を持っており、新しい取り組みへの共通理解も早い。児童への関わりを丁寧におこない、児童や保護者との信頼関係を構築していく力を持っている。また教職員どうしのサポートや協力についても相手意識を持ち行動している教職員が多い。

保護者の学校への期待や関心は高く、学級・学校の取り組みへの理解も得られやすい。保護者と学校がどのように子どもを中心にすえて協働していけるのか、取り組み方について検討を重ね、連携を深めていく必要がある。

(様式1)

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分1 『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
学校全体で学力向上に取組み、児童の主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。		児童・教職員アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【学びのプラン】確かな学びを育む学校づくり(教職員アンケート) 四條畷市の課題を理解し、それに正対した取り組みの充実に向けて学校全体で取り組んでいる。	強肯定評価 70%	これからの変化の激しい時代を生き抜く子どもたちが、必要な資質・能力を身につけるには、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が必要不可欠である。 全市的な課題を踏まえて、これまで本校で取り組んできた国語科を中心とした校内研修による成果を、学習指導部を中心に、更に深めていく。
【指導工夫加配】(児童アンケート) 授業では学習課題の解決や目標の達成に向けて、自ら進んで考え、取り組んでいる。	肯定的評価 80%	本校の研究テーマにそって、国語科の聞く話す領域において、児童が意欲的に相手を意識して「知識技能を働かせる」教育活動について、学びを深めるような授業研究を進める。 また、授業改善加配教員(JK)を中心に校内の授業改善に組織的に取り組み、校内研修の成果を踏まえ、他教科にも成果を広げていく。

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
校務分掌等において、ミドルリーダーを中心とした学校組織力の向上を図る。		児童・教職員アンケート
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【学びのプラン】2期重点(職員アンケート) すべての児童生徒が学	強肯定評価 60%	「四條畷市授業スタンダード」を踏まえて、校内研修の充実を図り、何を学習したのか、わかったことは何なのかを認知し、次の学習への調整力を高めていく。具体的には学習指導部を中

(様式1)

習に参加し、理解できるよう、学習中の手立てや支援を行いましたか。		心に振り返りの充実を図り、児童のメタ認知力向上、基礎基本の学力の定着と自己調整力を向上させていく。
【指導工夫加配】 (児童アンケート) 学級の友だちと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができている。	肯定的評価 80%	安全で安心できる学習集団の中で、自分の考えや解答を相手に説明する力の育成を大切に、一人ひとりの児童の力の伸長を図りたい。 また、協働の学習を通じて、児童間のつながりを深めると共に、関わる全ての子どもたちの考えの広がりや深まりを探究していく。

目標設定区分3 『人の管理・育成』(※業務量管理・健康確保措置実施計画の内容についても)

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
全ての教育活動の基本となる学習集団づくりを通じて、教職員の資質向上を図る。また、業務量の管理による教職員の健康保持増進に努める。	学校教育自己診断アンケート、年次休暇カード	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
【学校教育自己診断】 (保護者アンケート) 学校には、子どもが安心して過ごせる雰囲気がありますか。	肯定的評価 85%	発達支持的生徒指導やポジティブ行動支援の視点を全教職員で共有し、日々の教育活動に活かしながら、学校が児童にとって安全で安心できる学びの場所となるよう、学校全体で学習集団づくりに取り組んでいく。
本校における年次有給休暇の平均取得日数12日以上をめざす。	年次有給休暇の平均取得日数12日以上	教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画の趣旨を踏まえ、教職員が健康で意欲的に教育活動に取り組むことができる職場環境を整え、教育の質の向上や教職員の健康の保持増進に努める。

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標	達成基準(各種調査、アンケート等)	
家庭教育(学習)支援の充実と地域コミュニティづくりの推進	学校教育自己診断アンケート	
B 目標実現に向けた取組み		

(様式1)

項目	達成基準	具体的な方策
【学校教育自己診断】 (保護者アンケート) お子さんは宿題や自主学習にがんばって取り組んでいますか。	肯定的評価 65%	【家庭教育支援の充実】 家庭学習のねらいを教職員間で明確にし、児童はもちろん、保護者にも周知して、自己の未来に向けて計画的に学習取り組む児童の姿勢を家庭と共に育てていく。
【学校教育自己診断】 (保護者アンケート) 学校の教育活動や様子は、保護者によく知らされていますか。	肯定的評価 85%	【開かれた学校づくり】 積極的な情報発信に努め、教育活動のねらいや学校の現状や課題などを共有していく。学校、家庭、地域が思いを等しくして、子どもたちに向き合えるよう心掛け、地域の資源も活用しながら、子どもたちを中心に据えたコミュニティの輪(連携)を強めていく。